

# ぶどうの木

2010年8月  
第91号  
聖アウグスチノ  
カトリック葛西教会

東京都江戸川区中葛西1-10-15  
03-3689-0014

## 聖母の被昇天祭

### おめでとう申し上げます

主任司祭 ジェス神父

ジェス神父でございます。一言ご挨拶申し上げます。

皆さんご存知のように、今年の四月から、私はカトリック葛西教会で主任司祭として働かせていただいています。主任司祭は初めての体験で、本当に大きなチャレンジですが、神様の豊かな恵みと皆さんの共同体的な協力によって私がこの大きな責任を忠実に果たすことができるようにお祈りいただきたいと思います。

すでに何度かお話しする機会がありました。が、あらためて自己紹介をさせていただきます。私は「ジェス」というニックネームで呼ばれています。本当の名前はヘスス・メルニク・ダーニョと申します。スペイン語から来た名前ですが、「ヘスス」というファーストネームはイエス様のことです。なぜ私がイエス様と同じ名前を付けられたのかというと、私が昭和四十二年三月二十六日に生まれました。カトリックカレンダーを調べてみると、三月の二十六日はお告げの聖マリアの祭日です。

私の出身地はフィリピン、ルソン島です。ケゾン県で生まれ育ちました。十四人家族、十二人兄弟の七番目です。大家族だったので、両親にとって子供を育てるのは大変でした。けれども、私たちが幸で一つの(団結した)家庭になるように、私たちを一所懸命育ててくれました。両親ははとも感謝しています。またうちの家族は貧しかったので、私は小学校から大学の卒業まで良い教育を受けるために精一杯働いて自活しました。

聖アウグスチノ修道会に入る前には数学の教師として勤めていました。五年後に仕事をやめて、修道会への入会を決めました。どんなきっかけで修道会に入ったのかと私は尋ねられたことがあります。小学校から大学までカトリックの学校で勉強しましたし、カトリック学校でも勤めていました。聖アウグスチノ修道会に入る前に、教区の神学校にも入学してしばらく勉強していました。カトリックの宗教的雰囲気の中で育ちましたので、聖アウグスチノ修道会への入会にはその影響があることは間違いありません。

私はフィリピンのセブ管区に属しています。誓願を立ててから、もう十一年になりました。司祭叙階は二〇〇三年七月二十四日です。そのわずか三カ月後に管区長から日本の教会で宣教師として働くようにと派遣されてきました。

日本に来てもう七年がたちました。最初の二年半は千早にある養成の家で過ごしながら、

日本語の勉強をしました。この時には葛西教会では英語ミサを手伝うことだけで、十時の共同体の活動になかなか参加できなかったことが残念でした。日本語学校を卒業した後、二年間を長崎の城山教会と聖マリア学院で働かせていただきました。

城山教会と学校で働くことができたのはとても良い経験でした。英語を教えていたもので、一日中忙しかったです。そして、教会の仕事の最初はすべてが勉強でしたが、共同体が支えてくれたおかげで少しずつ慣れていきました。城山教会ではほとんどの秘跡を授けることができたので、(司祭として)いい勉強になりました。そして、病人訪問や祈りの会や共同体の活動などの仕事で忙しく過ごしましたが、私はうれしかったです。

長崎にいた時と同じ忙しさで葛西教会でも神様と信者さんに仕え、皆を神様に導くための時間を過ごしたいと願っています。聖マリアが言ったように「私は主のはしためです」私も神様と皆さんの僕です。葛西教会の皆さんへの奉仕を通して、神様に仕えることができますように。(Let me serve God through you.)どうぞよろしくお願いたします。



# わたしの主、わたしの神よ

(ヨハネ二〇章二十八節)

アンドレア神父

初めまして。カトリック・ミラノ外国宣教会のアンドレア・レンボと申します。イタリアで産まれて、子供の頃から弁護士になるつもりでしたが、やがて神様の計画、私の召命は違つところにあると思つようになりました。そしてミラノ外国宣教会の神学院に入会しました。

宣教師になるために2年ぐらいをアメリカで、また4年ぐらいをフィリピンで過ごし、神学の勉強をしました。特にフィリピンでの素晴らしい経験は数えきれないくらいで、神

様に感謝するばかりです。そして六年前にイタリアに戻つてから司祭叙階の準備をしました。多くの神父様方と信者の皆さん、友達たちのお蔭で私の叙階式は大きなお祝いとなり、とても幸せでした。そのときにタイトルにある福音の文章を選択し、以来これは私の司祭職の標語になってきました。なぜならば聖トマスと言うように、毎日ミサを捧げる時、仕事をする時、勉強をする時、また人々と話す時を通してイエス様に出会うことができると感じるからです。

去年の3月に日本に来た末、日本語の勉強を始めて一年間をミラノ宣教会の本部で過ごしました。早いもので、私が千早の聖アウグスチノ修道会と葛西教会に来てすでに4ヶ月が経ちました。日本の修道院と教会の生活は初めてなので時々心配しましたが、皆様からすぐく歓迎して頂いて、本当に感動しました。最近はお蔭様で徐々にいろいろなことがわかり、修道院と教会の生活にも慣れてきました。皆様からの恵みと皆様からのはげましに支えられ、心から感謝する毎日です！

これからもよろしくお願ひします。

## 建物管理部報告

ドミニコ 佐々木満夫

3月に補修業社5社から提出された見積りを検討しました。当初予定した金額をはるかに上回る見積りが出されて、大きな戸惑いを感じましたが、部会で話し合った結果、その5社の中からさらに3社にしぼり、再度見積りを提出していただきました。

5月になって、それぞれ見積りが提出された結果、今回補修を行っていただいた(株)伊勢崎組様に決定しました。総額一千三百五十万円くらいの工事費となります。皆様からお預かりした大事なお金を使わせていただきます。

8月末のアウグスチノ祭までには、工事が完了し、すばらしい教会になって生まれ変わると思ひます。ありがとうございます。

↑幕を被った教会

←張り替え中の屋根

←塗替え中の尖塔

# ミリアム・シスター蒲原住枝様との祈りの集い

マリア 森山 ハツエ

長崎のけがれなき聖母の騎士女子修道女会所属のシスター蒲原様が東京修道院にいらっしやるということで、七月三日(土)に、葛西教会でお祈りの集いが行われました。

昨年M-1(けがれなき聖母の騎士)会員になられた方々にもお逢いして再会ということになりました。会員に限らずどなたでもということ、二十名ほどの集いになりました。

ロザリオを唱える前にグリニオンド モンフォールの「ロザリオの神秘」という本に触れられ、天使祝詞(恵あふれる聖マリア:)のお祈りがマリア様をどれほどお喜ばせるお祈りであるかということ、マリア様ご自身がある聖人に語られたという事や、ロザリオの各玄義の深い味わいを話され、シスターの先唱のもと、静かな心深いロザリオのお祈りと聖母マリア様への奉獻のお祈りを唱えることが出来ました。



分かち合いは、何人かの人が、不思議のメダイを身につけることによりマリア様からいただいた不思議な感動的なお恵みの体験談をお話しされたり、ルルドの巡礼中に

遭遇された神様と教会に敵対するものの行動と思える事件についてお話しされたりしました。

最後に、ご出現の始まった当初から、そのご意向のためにマザーテレサとその会員たちも祈り続けているというメジューゴリエ(最近、教皇様によって調査委員会が発足した)でのマリア様のメッセージを一つずつ印刷したものを、くじのように各人が一つずつひいて、そのみことばを各人で読み上げ、みんなで分かち合い、マリア様のメッセージを深く味わいました。

私のみことばは、「あなたたちのすべての感情とすべての問題を私にください。私はあなたたちのすべての試練においてあなたたちを慰めることを望んでいます。私はあなたたちを平和、喜びそして神の愛で満たしたいのです。(一九八五年六月二十五日)」と記されています。

私も小さい頃から家庭祭壇の前で足の痛さにがまん?しながらロザリオを唱えていました。たことを思い出しつつ、身近にいた大人達がいっつもロザリオを手にして祈っていた姿が目には浮かびます。先人達のこの祈りの姿勢と信仰を引き継いでいき、人生の歩みの中でマリア様から多くのお恵みを頂いてきたことを今更ながら思います。

色々な事が目まぐるしく動いています。現代社会の中で、聖コルベがM-1創立のきっかけになったフリーメーソン(神と教会に敵対す



る悪魔的な秘密結社)の回心のために、引き続き、私達がどれほど祈らなければならぬかを、沈黙の中で祈る神様との語らいの大切さを、この集いにより改めて教えられた一日でした。

集いの最後に、イエス神父より参加者を祝福して頂き、お恵み多き時間となりました。

これからも、葛西教会の皆様と祈りと信仰の分かち合いを大切にしながら歩んでいきますように祈り願いながら、神父様方、シスター蒲原、信徒の皆様方のご協力によりこの集いが開催されました感謝の祈りを、聖母マリアの祈りの中で、おささげしたいと思います。

## 転入者、受洗者の集い

マリアモニカ 金城千里

四月四日復活祭の日、転入者、受洗者の方たちの集いを行いました。

このところ暫くなかったのですが、久し振りの集いです。日程選びも復活祭は信徒の人たちが集まり易いのではないかとの理由で決めたのですが、準備不足もあり、皆様に行き届かない中で集いが行われました。

この三年間の転入者の方、受洗された方には前もって案内をして集まっていたくださしました。

地区委員、地区の方たちの協力を得て、それぞれ地区ごとにテーブルを囲み、新しい方の紹介、そして自己紹介に進み、その中からお互いの顔と名前を知ることによって、お話が弾み和やかな雰囲気が生まれました。

各テーブルの分かち合いの様子を目にしながら、出会いがあり、じかに話合える場のあることの大切さを感じました。親睦を深めながら、支えあえる共同体を目指してお互いが繋がっていければと思います。

一時間余りで終わったのですが、どうなるかと思いつながら始まったこの集いが、転入者、受洗者の方たちにとっては、葛西教会での始めての、皆さんが互いに紹介し合えた出会いに、喜んで帰っていただけたようで、ほっと胸を撫で下ろしました。

これを機会に次回は更によりよい集いにしていけたらと思っています。  
この集いの中で頂いた恵みに感謝しています。

## 復活祭を迎えて

キアラ 笹島泰子

今年の復活祭に私は洗礼のお恵みを受けることができ、葛西教会の皆様には感謝の思いで一杯です。

私の両親は親戚まで大きな新興宗教の信者で、小さい頃から鳥居はくぐるな、お守りは持つな、教会には行くなと様々な禁止事項がありました。そう言われても、子供の時から教会の雰囲気が好きで、近所の教会のお聖堂に初めて入った時は、静かで外の空気とは全く違った空間に感動しました。今思うと両親も自分達の教えを忠実に守っていたのだと思います。父の命日だったので、生きていたら何て言ったのかなと思っています。

洗礼を受けて、自分の人生は自分の判断で生きてきたように思っていました。この日の為に私は様々な人に導かれて生きてきたんだと感じます。

今はミサに与る事、聖書を読んだり、お祈りする事が日々発見です。聖書は難解ですが、

いつか私にも心から理解できる日がくると信じて毎日読んでいます。

まだまだ始めの一步ですが、イエス様をいつも近くに感じられるように、一日一日信仰を積み重ねていきたいと思えます。これからもどうぞよろしくお祈ります。



## 「繋がりの暖かさ」

アッシジのフランチェスコ 中島 優

葛西教会に通うようになって、もうすぐ一年が経ちます。現在私は一人暮らしをしていますが、葛西のみなさんからは、家族を思い出すような繋がりを感じます。

初めて葛西教会に来たときの事は印象的でした。ミサの後に、初めて来た私を紹介していただきました。私は「温かいな」と感じ、この教会に通おう、と思えました。今も、皆様昔からの友人のように接してくれ、嬉しく感じています。

私は洗礼を受けてからまだ一年しか経っていません。今年で会社勤めを初めて二年目になるのですが、毎日の仕事は厳しく、その中で悩む事が多いです。自分の至らなさを受け入れられずに悩むのですが、そんな時に神様に祈る事が大きな支えとなっています。自分の弱さや狡い部分を含め、自分を自分として、受け入れる手助けをしていただいている風に感じます。まだまだ信仰生活に疎い私ですが、

これから葛西の皆様との交わりの中で、信仰を深めていきたいと考えています。

どうぞこれからも、宜しくお祈りいたします。



## 私が願うこと

ベルナデッタ 平野仁見

私は、幼い頃からずっと、母の信仰生活をお手本として育ってきました。

私の母は、私の幼い頃、お姑さんからカトリック信者を止める様に、言われ続けていました。それでも母は信仰を捨てずに守り続けていました。そんな母を見て、私も一緒に苦しい思いをしていました。

しかし、お姑さんが亡くなる前には、母を苦しめたことを、悪かったと詫びたそうです。その時は、母も信仰を捨てずに居たことに喜びと感謝で一杯になったと話してくれました。

去年の四月から、東京で息子の夢の実現のため、と言ってもそんな大袈裟ではなく、将来のために私と二人で暮らし始めました。私のお手本である母が、私の側に居なくなつたので、今はとても不安な日々を送っています。しかし、母と二人で毎日の祈りの中で、一緒にいる実感があります。

現在は、祈りで母と私が繋がれています。本当は、更に家族全員が祈りで繋がれば良いと願っています。東京にいる娘の家族は娘以外は信者ではありません。出来れば娘の家族も、同じ信仰で繋がる事ができればと願うばかりです。

葛西教会にお世話になり、地区の皆さんに紹介していただきました。同じ信仰に繋がるものとして、どうぞ宜しくお願い致します。



## 待ちに待った初聖体

クララ 下野ゆうな

四月十一日に、初聖体を受けました。その日まで、井出先生とシスター岸さまと神様のお勉強をしてきました。

そして、初聖体の日がきました。「上手にできるかな？」と心の中で思っていました。ご聖体はいりようは、私が一番さいしょなので、とてもきちょうしました。

ご聖体をいただいて、心の中が明るくなりました。「初聖体は、とても大切な日なんだな」とおもいました。初聖体のクラスで、楽しく勉強できてうれしかったです。

## 初聖体をいただいて

アウグスチノ 中島樹

ぼくは、初聖体をもらう時とてもどきどきしました。でも一回しかもらえないので、うれしいと言う気持ちがいつぱいでした。そして、じしゃもしてご聖体をもらつてうれしい事や楽しい事がいつぱいでした。

じしゃは二週れんぞくでしたが、終わったたら「ありがとうございましたございまして」と、はげましてくれたので、何回でも出来そうです。

それで初聖体はドキドキもあるけれど、やっぱりうれしさかいつぱいでした。

↑平野さん(右から二人目)



## イエスさまがぼくの中に

フィリップ ラバラ ケビン

ぼくの名まえはラバラ ケビンです。ぼくはいま8さいです。日ようびはきょうかいがっこうにいけます。さいしょはつせいたいのにじゅんびをしました。まなんだことはざんげの(どうやってつみをゆるされるか)です。きょうかしょのことまなびました。いで先生やきしシスターが数か月にわたってしんせつにおしえてくれました。はつせいたいの一終かん前にお母さんはすてきなタキシードをかけてくれました。

まちにまつたはつせいたいの日が来ました。みんなの前に立った時うれしかったのですが、きちょうしました。とうとうしんぶさんから、まるいパンのかたちをしたせいたいをいただきました。とてもうれしかったです。これでイエスさまがぼくの中ですむようになりました。

## 初せいたい感想

ゴンセンチオ・パロッチ 熊本光希

きょうかいがっこうでいろいろなべんきょうして初せいたいをいただきました。

初せいたいのときは、少しきんちょうしたけど楽しかったです。あとで、しばたしんぶさまにかんぞつをきかれてドキドキしました。井出せんせい、シスターきしさまありがとうございます。

## 合同地区集会

今年には八つの地区に分かれて、合同の地区集会在開かれた。トマスホールでは台所まで使って、四つの地区がまた小聖堂、司祭室などに分かれて「支え合う共同体となるために」をテーマに話し合った。各地区は地区委員が準備したお茶とお菓子で、それぞれ活発な分かち合いがあり、有意義な集会でした。その様子を、松江地区、行徳地区から報告頂きました。

### 合同地区集会を終えて

テレジア 安達昭子

「支え合う共同体となるために」をテーマに、ことしは地区ごとに分かれて分かち合いをしました。十二名の参加は、少し淋しいなと感じましたが、教会学校関係から二名、最近転入された若い夫婦の参加が松江地区に希望をもたらせてくれました。

昨年から、悲しい知らせや、長年の友人が遠く転出したりと淋しく思っていたからです。しかし、松江地区の者同士、変わらぬ助け合いイエス様のあとを忠実に歩いてゆきたいと思えます。

さて、地区の課題は連絡をスムーズに取り合うということ。総勢五十名以上がまとまるのは大変難しく、若い方の提案のようにメールを使うことも一つの方法です。しかし六十才以上は取り組みがなかなか困難のようです。

松江地区は、葛西教会の基礎をつくられた方が多く、地域でお互いが支え合ってこられたわけで、そのノウハウを生かした支え合いが今後とも大切だと思います。近くに住んでいる三人、五人と手の届く温かな支え合いを今後も続けていこうと話しました。

教会共同体のこれらの小さな共同体が手をつなぎ合って、教会共同体の一員として、大きく一つになってゆくことを願って、松江地区も、年上の世代と若い世代の交わりができてよかったです。

神に感謝

## 行徳地区委員として

マリア・アヌンチアタ 福井 滋子

七月十八日に地区集会在行われ、行徳地区は十六名の出席でした。今年には地区委員会から、「支え合う共同体」のテーマが打ち出され、今までの連絡の見直しをしました。気楽に連絡がとれる所だけでなく、今までは連絡が取れない所に連絡を試みると、電話が通じて話が出来て驚きました。時折は連絡をして欲しい人もおられました。ある方は、今回の地区会にも出席されて、「『声かけ』があつたから」とおっしゃっていました。

信仰は神様からの恵みで、覆いかぶさって邪魔をしていた不満、誤解が一寸した『声かけ』で取れ、信仰の火が燃え上がってきたのだと私は思います。もう一人の方も『声かけ』によって（それも一人ではなく二人で声かけをして）迷った気持ちが取れて教会に来られ、今までの仲間と再会し、喜び、希望が湧いてきたと思います。

人間は弱く、一寸したことでも不安、不満、誤解、迷いが覆いかぶさりますが、神様からの信仰の恵みがある限り、一人ではなく二人・三人で話し合っつてゆけば、心が触れ合い、出合いの場が出来、支え合える共同体の力が強くなるのだと思います。迷わずにいた九十九匹の羊よりも迷い出た一匹の羊に目を掛けてくださる神様。

私たちはアウグスチノ会の葛西教会の信者です。お聖堂のステンドグラスにあるアウグスチノの言葉

「掟のもとに奴隷のようではなく、

神の恵みのもとに自由なものとして」

「どのようなことよりも神を愛しなさい。」

そして隣人も」

が私は好きで、朝の祈りの前に読みます。

喜びのときも、どんな辛いときもこのメッセージを心に留めて、声をかけ、触れ合い、出合いの場が出来、支え合える共同体が大きく成長して行きます様に祈りつつ。

神に感謝

## Summer Camp in INAWASHIRO-LAKE, JFY & JFC



総勢約60名

2010/07/23~26



すばらしい野外ミサ



陽気なJFYのメンバーたち

## Sharing Our Faith on International Day

- Gary Cooper

One of the unique things about Christianity in general, and Catholicism in particular, is the call to share our faith with others. We gladly carry the love of Christ into our neighborhoods and workplaces, and are proud to be known as Christians by our works. As a member of Kasai Catholic Church, however, I am most proud of the way we share our faith amongst ourselves.

On May 30, 2010, the call to share our faith was heard and acted upon. After the 10:00 Mass, and after months of preparation and great anticipation, International Day commenced with a performance by our Sunday School Choir on the steps of the entrance to our church. The fact that it was held on the steps says a lot about the nature of sharing.

The original schedule called for the performance to take place inside Thomas Hall, but the church had emptied out and everyone was outside enjoying the sunshine and good food. Moving everyone back inside turned out to be more difficult than we had expected! This was not the good start we had planned. Why weren't the people cooperating?

And so our plans had to be quickly rethought. Why not have the performance outside? It seemed a strange and unusual thing to do. Could it possibly work? Instruments were quickly brought out and set up, and the children arranged themselves in orderly fashion on the church steps. The count off began, "one... two... three..." and International Day was off to a fantastic start, a start better than any of us had previously anticipated!

We are blessed with great diversity in our church, not only ethnic diversity, but also a diversity between young and old, men and women, clergy and lay people. Sharing our faith means celebrating this diversity, and developing bonds, bonds that sometimes seem strange or unusual and sometimes don't go according to our original plan. But when we truly answer the call to share our faith, we allow the love of Christ to spring forth in new and surprising ways that surpass our expectations.

International Day was full of such surprises! The day unfolded with song, dance, laughter, and of course lots of good food! The invitation to participate in such an atmosphere of joy was heard and accepted by all. We are blessed at Kasai Catholic Church to have such opportunities to share our faith and welcome the love of Christ into our lives in new and surprising ways.

Thanks be to God.

## 共にわかちあう心ーインターナショナルデー

ギャリー・クーパー (クーパー恭子訳)

「共にわかちあおうとする心」、これはキリスト教、特にカトリックの信者独特の思いではないでしょうか。普段の生活や職場などで、周囲の人びとへイエス様の愛を届け、喜びをわかちあえた時、私はカトリックの信者として自分の信仰を誇りに思います。しかし、教会内での、信仰を同じくする仲間との「わかちあい」の機会はまた特別です。このような機会こそ、葛西教会のコミュニティの一員として、私が一番誇りに思う時なのです。

2010年5月30日、まさにこの「わかちあいの心」のもと、インターナショナルデーは開催されました。この素晴らしいイベントは、まず教会学校の子供たちによる合唱でその幕を開けました。当初トマスホールで行われるはずであったこの演し物ですが、しかし子供たちが実際に歌を披露したのは、なんと教会入り口の階段の上でした。

実は、舞台エリア準備中、皆さんには一旦外に出て頂いておりましたが、準備が整い、いざ皆さんを中へ呼び込もうと試みたところ、誰も戻って来てくれないのです。屋台で供される各国料理に舌鼓を打ち、歓談する皆さんに、いくら呼びかけても誰も動いてくれません。私たち司会進行係としては、これは全く想定外の事態です。困り果て途方に暮れている所へ誰かの声が。「じゃあ、外で歌っちゃおうか」と。時間がおしていることもあり、仕方なく、急遽場所を変更してのパフォーマンスとなった訳です。

戸惑う子供たちを何とか外へ移動させ、楽器をセット。「トップバッターからこの調子では先が思いやられる。大丈夫なんだろうか?」との私の心配をよそに、「ワン、ツー、スリー、」と指揮者のかけ声が始まりました。そして…。それは実に素晴らしいパフォーマンスだったのです! 私の心配など一気に吹き飛ばしてしまったのは言うまでもありません。正に予想外の驚きでした。

皆さんご存知のように、私たち葛西教会のコミュニティのメンバーは多種多様です。単に様々な国籍の方々がいるというだけではありません。我々は皆、世代、性別、また職業や考え方によって、バックグラウンドとなる文化を異にしています。しかし、ともに信仰をわかちあうことで、私たちはそれぞれの文化を讃えあう事が出来るのではないのでしょうか。互いの文化の違いを認め、尊重しあうことによって、私たちの心はひとつに結ばれて行きます。時に難しく、またお互いの反応に戸惑い、予想外の事態に悩まされる事もあるでしょう。しかし、「わかちあい」の機会に招かれ、それに応えようとする時、その時こそイエス様の愛が私たちの裡に芽生え、今までとは違った、全く新しい実りが結ばれて行くのではないのでしょうか。

インターナショナルデーは、全く新しい、そして楽しい「想定外の事態」の連続でした。子供たちの屋外での歌の披露から始まり、ダンスあり、笑いあり、そして何より美味しいお料理! 驚きとともに始まり、喜びとともにその一日を終えたのでした。共に信仰をわかちあい、ひとつに結ばれ、イエス様の愛で心が満たされる。このような恵みあふれる機会を与えられ、私は、この葛西教会コミュニティの何と幸いなことかと思わずにいられません。

神に感謝。

